16　大豆栽培暦「エンレイ（えんれいのそら）」

大豆の生育

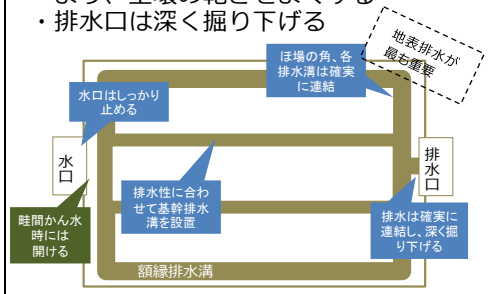
■栽培ポイント■
- 土づくりの実践と適正な施肥
- 排水対策の徹底
- 適正な播種
- 雑草防除
- 的確な中耕培土
- 莢数確保のための畦間かん水
- 適正な病害虫防除
- 適正な収穫・乾燥

播種 ― 生育期 ― 開花期 ― 莢伸長期 ― 子実肥大期 ― 黄葉期 ― 落葉期 ― 成熟期

月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
作業名	①排水対策②種子消毒 ③土づくり 石灰質資材の施用 地力増進作物や堆肥の施用	④耕起・基肥施用・播種 ⑤土壌処理除草剤の散布	⑥1回目培土　(茎葉除草剤の散布) ⑥2回目培土 ⑦畦間かん水	⑧病害虫防除(8月2～3半旬) ⑧病害虫防除（8月4～5半旬）	⑨適期収穫 ⑩乾燥 調製・選別	

栽培技術のポイント

①排水対策
- 前年秋～遅くとも4月までの額縁及び基幹排水溝の設置や心土破砕により、土壌の乾きをよくする
- 排水口は深く掘り下げる



②種子消毒
- 紫斑病やﾌﾀｽｼﾞﾋﾒﾊﾑｼ等の病害虫防除のため、薬剤の種子塗沫処理を行う

③土づくり
- 石灰質資材を施用し、土壌pH6.0～6.5確保、地力増進作物のすき込みや堆肥を施用する

	肥料名	施用量/10a
石灰質資材	苦土石灰	100～200kg
堆肥（春施用）	牛ふん堆肥	1～2 t
	豚ふん堆肥	0.5～1 t
	発酵けいふん	75～100kg
	籾殻堆肥	1～2 t

④耕起・基肥施用・播種
- ほ場が乾いた条件で、耕起～播種の一連の作業は１日で実施する

	肥料名(配合比)	土壌条件	施用量/10a
基肥	BB084 (10-18-24)	砂壌土	30～40kg
		埴壌土	20～30kg

播種時期	栽植本数注) (本/10a)	播種量 (kg/10a)
5月6半旬～6月上旬	14,000～16,000	(大粒) 5.5～6.2 (中粒) 4.6～5.3

注）・大粒百粒重 35.1g、中粒 27.7g として計算
・スリップ率は考慮していない

⑤土壌処理除草剤の散布
- 播種後、速やかに散布する
- 規定量を均一に散布し、除草剤の効果向上と、薬害の発生防止に努める

⑥的確な中耕培土
- 培土は根域の拡大、根粒の増加、雑草の抑制、排水の促進、土壌通気性の向上、倒伏防止の効果がある。
- ２～３葉期と４～５葉期頃に2回培土を確実に行う

【茎葉除草剤の散布】
- 培土で抑制しきれない雑草や難防除雑草が生じた場合は、雑草の発生状況に応じて茎葉処理除草剤の適期散布する

⑦畦間かん水
- 開花期頃～9月上旬頃まで、晴天が３日以上続くと見込まれる場合は、積極的に畦間かん水する
- ほ場全体に水が行き届いたら水口を止め速やかに排水する

⑧病害虫防除
- ２回の基本防除（紫斑病、カメムシ）を確実に実施する。
- 随時防除は病害虫の発生状況に応じて実施する

⑨適期収穫
- 収穫前に雑草や青立ち株を取り除き、汚損粒の発生を防止する。
- 子実水分22%、褐色莢90%以上で刈取りを開始する

⑩乾燥
- 機械乾燥する場合は気温プラス5℃以内の送風温度とする
- 共同乾燥調製施設を利用し、整粒歩合が高く、粒径の揃った均質な大豆に仕上げる